

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年8月8日

【四半期会計期間】 第15期第1四半期(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

【会社名】 日本リーテック株式会社

【英訳名】 NIPPON RIETEC CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 江 草 茂

【本店の所在の場所】 東京都千代田区神田錦町一丁目6番地

【電話番号】 03(6880)2713

【事務連絡者氏名】 執行役員 財務部長 鈴木 盛文

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区神田錦町一丁目6番地

【電話番号】 03(6880)2713

【事務連絡者氏名】 執行役員 財務部長 鈴木 盛文

【縦覧に供する場所】 日本リーテック株式会社 中央支店  
(千葉県松戸市上本郷701番地)  
日本リーテック株式会社 横浜支店  
(神奈川県横浜市磯子区磯子一丁目4番3号)  
日本リーテック株式会社 仙台支店  
(宮城県仙台市宮城野区岩切分台一丁目8番地の6)  
日本リーテック株式会社 西日本道路インフラ支店  
(愛知県あま市上菅津北ノ川47番地)  
日本リーテック株式会社 関西支店  
(大阪府大阪市北区本庄西二丁目21番4号)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 上記の仙台支店及び関西支店は、法定の縦覧場所ではないが、投資家の便宜を考慮し、縦覧に供する場所としている。

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第14期 第1四半期 連結累計期間	第15期 第1四半期 連結累計期間	第14期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2023年4月1日 至 2023年6月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	7,999,643	9,014,864	53,745,147
経常利益又は経常損失( ) (千円)	1,044,839	873,677	3,081,712
親会社株主に帰属する 当期純利益 又は親会社株主に帰属する 四半期純損失( ) (千円)	774,465	653,075	2,137,106
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	745,784	154,272	2,133,804
純資産額 (千円)	54,079,476	55,955,665	56,783,621
総資産額 (千円)	74,028,815	77,140,016	82,853,824
1株当たり当期純利益 又は1株当たり四半期純損失 ( ) (円)	30.79	26.17	85.07
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	73.1	72.5	68.5

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはない。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はない。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

本文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものである。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行やインバウンド需要の拡大等を背景に、社会経済活動の正常化に向けて企業活動や個人消費に持ち直しの動きが見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移した。

建設業界においては、昨年度に引き続き国土強靱化工事をはじめとした関連予算の執行もあり公共投資は底堅く推移しており、民間設備投資も徐々に回復の兆しが見え始めるなど、受注環境は改善傾向となっている。

このような状況の中、当社グループにおいても主要顧客における業績の回復傾向を受けて、前年度後半から受注が伸長し、繰越工事高は371億1千7百万円と前年度より81億7千1百万円上回る水準でのスタートとなった。当第1四半期の受注高については各事業部門とも堅調に推移しており、185億6千4百万円（前年同期は87億2千3百万円）となった。特に送電線設備部門においては、リニア中央新幹線電力供給工事や基幹送電線増強工事などの大型プロジェクト工事の受注により、対前年同期比で大幅な増加となった。売上高については、前年度からの繰越工事をはじめ施工が順調に進捗したことにより、90億1千4百万円（前年同期は79億9千9百万円）となった。

利益については、工事の受注条件等が一時期より改善されつつあるものの、原材料価格や人件費の高騰の影響により、引き続き採算は厳しい状況が続いており、8億9千3百万円の営業損失（前年同期は10億9千8百万円の営業損失）、8億7千3百万円の経常損失（前年同期は10億4千4百万円の経常損失）、6億5千3百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失（前年同期は7億7千4百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となった。

なお、当社グループの業績は、販売費及び一般管理費等の固定費は各四半期に概ね均等に発生する一方で、工事の完成引渡しが第4四半期に集中することから、売上高、利益ともに第4四半期に偏重する季節の変動がある。

セグメントの業績は次のとおりである。

#### ( 電気設備工事業 )

電気設備工事業については、受注工事高は185億6千4百万円（対前年同期比112.8%増）、完成工事高は82億1千5百万円（対前年同期比11.3%増）、営業損失は1億4千7百万円（前年同期は2億3千4百万円の営業損失）となった。

##### [ 鉄道電気設備部門 ]

鉄道電気設備工事については、東日本旅客鉄道株式会社の安全・安定輸送に伴う設備更新工事等により、受注工事高は66億2千5百万円、完成工事高は50億4百万円となった。

##### [ 道路設備部門 ]

道路設備工事については、高速道路会社各社の標識工事・電気通信工事、警視庁及び各警察本部の交通信号機工事等により、受注工事高は29億7百万円、完成工事高は10億4千8百万円となった。

##### [ 屋内外電気設備部門 ]

屋内外電気設備工事については、官公庁施設・商業施設・銀行関連施設等の電気設備新設・改修工事等により、受注工事高は4億1千4百万円、完成工事高は6億2千8百万円となった。

[ 送電線設備部門 ]

送電線設備工事については、電力会社各社の架空送電線路工事により、受注工事高は86億 1 千 6 百万円、完成工事高は15億 3 千 3 百万円となった。

( 兼 業 事 業 )

兼業事業については、主に交通施設の標識及び交通安全用品の製造・販売等により、売上高は 7 億円（対前年同期比34.5%増）、営業利益は 7 千 7 百万円（前年同期は 5 千 3 百万円の営業損失）となった。

( 不 動 産 賃 貸 事 業 )

不動産賃貸事業については、土地、建物等の賃貸により、売上高は 9 千 9 百万円（対前年同期比0.4%減）、営業利益は 2 千万円（前年同期は 2 千 3 百万円の営業利益）となった。

（注）当社は、セグメント利益又は損失について、各セグメントの営業利益又は営業損失としている。

財政状態の分析

当第 1 四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ57億 1 千 3 百万円減少し、771億 4 千万円となった。（現金預金で16億 4 千 5 百万円の増加、未成工事支出金で15億 2 千万円の増加、受取手形・完成工事未収入金等で96億 1 千 3 百万円の減少）

負債は、前連結会計年度末に比べ48億 8 千 5 百万円減少し、211億 8 千 4 百万円となった。（支払手形・工事未払金等で27億 6 千 9 百万円の減少、未払法人税等で10億 5 千 7 百万円の減少）

純資産は、前連結会計年度末に比べ 8 億 2 千 7 百万円減少し、559億 5 千 5 百万円となった。（利益剰余金で13億 2 千 6 百万円の減少、その他有価証券評価差額金で 4 億 7 千 8 百万円の増加）

( 2 ) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第 1 四半期連結累計期間において、当社グループが事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更はない。

( 3 ) 研究開発活動

当社グループにおいて、新技術の開発・改善及び安全作業の向上に関する業務改善等を目的として研究開発活動を行っている。

当第 1 四半期連結累計期間における研究開発活動費は 6 百万円である。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第 1 四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はない。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年8月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	25,617,717	25,617,717	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数は100株である。
計	25,617,717	25,617,717		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項なし。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項なし。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年4月1日～ 2023年6月30日		25,617,717		1,430,962		649,201

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はない。

## (6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2023年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしている。

## 【発行済株式】

2023年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 666,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 24,935,500	249,355	
単元未満株式	普通株式 15,817		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	25,617,717		
総株主の議決権		249,355	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が4,000株(議決権40個)含まれている。

2 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式65株が含まれている。

## 【自己株式等】

2023年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 日本リーテック株式会社	東京都千代田区神田錦町 一丁目6番地	666,400		666,400	2.60
計		666,400		666,400	2.60

## 2 【役員の状況】

該当事項なし。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載している。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	7,851,390	9,497,349
受取手形・完成工事未収入金等	37,238,887	27,625,095
未成工事支出金	725,214	2,245,687
商品及び製品	91,445	91,897
仕掛品	7,158	7,372
材料貯蔵品	278,813	286,200
その他	337,487	876,484
流動資産合計	46,530,397	40,630,086
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	9,318,230	9,181,035
機械・運搬具(純額)	282,767	260,251
工具器具・備品(純額)	261,335	276,375
土地	8,132,764	8,080,474
リース資産(純額)	2,003,535	1,887,835
建設仮勘定	53,133	111,091
有形固定資産合計	20,051,767	19,797,063
無形固定資産	581,609	540,740
投資その他の資産		
投資有価証券	14,664,222	15,152,765
その他	1,030,252	1,023,784
貸倒引当金	4,425	4,425
投資その他の資産合計	15,690,050	16,172,125
固定資産合計	36,323,427	36,509,929
資産合計	82,853,824	77,140,016



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	7,365,237	4,595,310
電子記録債務	2,902,158	3,132,617
未払法人税等	1,081,965	24,254
未成工事受入金	227,737	299,140
完成工事補償引当金	2,645	282
賞与引当金	1,423,803	490,029
その他	5,347,357	5,074,914
流動負債合計	18,350,905	13,616,548
固定負債		
退職給付に係る負債	5,526,060	5,522,138
役員退職慰労引当金	32,025	17,255
その他	2,161,211	2,028,407
固定負債合計	7,719,297	7,567,802
負債合計	26,070,202	21,184,350
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,430,962	1,430,962
資本剰余金	3,205,423	3,205,423
利益剰余金	51,025,267	49,698,507
自己株式	518,943	518,943
株主資本合計	55,142,709	53,815,949
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,721,278	2,199,989
退職給付に係る調整累計額	80,365	60,274
その他の包括利益累計額合計	1,640,912	2,139,715
純資産合計	56,783,621	55,955,665
負債純資産合計	82,853,824	77,140,016

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
売上高	7,999,643	9,014,864
売上原価	7,767,191	8,564,572
売上総利益	232,451	450,291
販売費及び一般管理費	1,330,717	1,343,671
営業損失( )	1,098,265	893,379
営業外収益		
受取利息	148	172
受取配当金	83,664	89,073
物品売却益	49,590	63,391
その他	9,801	14,155
営業外収益合計	143,204	166,792
営業外費用		
支払利息	10,541	12,893
持分法による投資損失	67,321	128,269
その他	11,915	5,927
営業外費用合計	89,778	147,090
経常損失( )	1,044,839	873,677
特別利益		
固定資産売却益	-	2,251
投資有価証券売却益	100	-
特別利益合計	100	2,251
特別損失		
固定資産除売却損	44,777	10
特別損失合計	44,777	10
税金等調整前四半期純損失( )	1,089,516	871,436
法人税、住民税及び事業税	4,220	9,432
法人税等調整額	319,270	227,793
法人税等合計	315,050	218,360
四半期純損失( )	774,465	653,075
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	774,465	653,075

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純損失( )	774,465	653,075
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	29,929	466,697
退職給付に係る調整額	4,066	20,091
持分法適用会社に対する持分相当額	5,314	12,013
その他の包括利益合計	28,681	498,803
四半期包括利益	745,784	154,272
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	745,784	154,272
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## 【注記事項】

## (四半期連結損益計算書関係)

## 売上高の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年6月30日)

当社グループの売上高は、通常の営業形態として第4四半期連結会計期間に工事の完成引渡しが集中するため、第1四半期連結会計期間から第3四半期連結会計期間における売上高に比べ、第4四半期連結会計期間の売上高が著しく多くなるといった季節的変動がある。

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
減価償却費	317,201千円	340,704千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月24日 定時株主総会	普通株式	679,085	27.00	2022年3月31日	2022年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項なし。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がない。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月27日 定時株主総会	普通株式	673,683	27.00	2023年3月31日	2023年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項なし。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がない。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	電気設備 工事業	兼業事業	不動産賃貸 事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,379,469	520,664	99,509	7,999,643		7,999,643
セグメント間の内部売上高 又は振替高		219,386	11,607	230,993	230,993	
計	7,379,469	740,050	111,117	8,230,637	230,993	7,999,643
セグメント利益又は損失( )	234,162	53,519	23,147	264,533	833,731	1,098,265

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 833,731千円には、セグメント間取引消去13,815千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 847,547千円が含まれている。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っている。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項なし。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	電気設備 工事業	兼業事業	不動産賃貸 事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	8,215,611	700,129	99,122	9,014,864		9,014,864
セグメント間の内部売上高 又は振替高		273,986	11,607	285,594	285,594	
計	8,215,611	974,115	110,730	9,300,458	285,594	9,014,864
セグメント利益又は損失( )	147,799	77,440	20,105	50,253	843,125	893,379

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 843,125千円には、セグメント間取引消去 7,178千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 835,947千円が含まれている。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っている。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項なし。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	電気設備工事業	兼業事業	不動産賃貸事業	
鉄道電気設備	4,450,745			4,450,745
道路設備	1,074,846			1,074,846
屋内外電気設備	420,825			420,825
送電線設備	1,433,050			1,433,050
兼業		520,664		520,664
顧客との契約から生じる収益	7,379,469	520,664		7,900,133
その他の収益			99,509	99,509
外部顧客への売上高	7,379,469	520,664	99,509	7,999,643

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	電気設備工事業	兼業事業	不動産賃貸事業	
鉄道電気設備	5,004,965			5,004,965
道路設備	1,048,277			1,048,277
屋内外電気設備	628,476			628,476
送電線設備	1,533,891			1,533,891
兼業		700,129		700,129
顧客との契約から生じる収益	8,215,611	700,129		8,915,741
その他の収益			99,122	99,122
外部顧客への売上高	8,215,611	700,129	99,122	9,014,864

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
1株当たり四半期純損失( )	30円79銭	26円17銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	774,465	653,075
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失( )(千円)	774,465	653,075
普通株式の期中平均株式数(株)	25,151,301	24,951,252

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

## (重要な後発事象)

該当事項なし。



## 2 【その他】

該当事項なし。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月8日

日本リーテック株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 齊藤 直樹

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 西谷 直博

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本リーテック株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本リーテック株式会社及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。